

守分寿男全仕事 『幻の町』・小樽・小林多喜二



守分寿男（IBC入社時）

テレビディレクター・プロデューサー、守分寿男は1934年大分県生まれ。9歳で北海道に移り住みました。小樽商科大学卒業後、北海道放送入社。「東芝日曜劇場」を中心に数々のテレビドラマを演出・プロデュースしました。とくに脚本家・倉本聰と組んだ佳作を数々放映し、なかでも小樽を舞台とした「幻の町」は、いまも伝説的名作として語り継がれています。2008年5月31日に放映されたドキュメンタリー「いのちの記憶」小林多喜二・二十九年の人生」の構成・演出が、生涯最後の作品となりました。2010年12月27日没。

文筆家としても優れた守分寿男の仕事を通し、貴重な初期北海道民放制作のドキュメンタリー・ドラマ関連資料から、北海道の独自性を追求するテレビマンらの苦闘を伝え、彼らが制作したドラマ・映像を再評価するものです。

一九三三年二月二十日、彼は捉えられ、拷問の末に虐殺死。

それがまた、ひとつの伝説として語り継がれ、戦前、戦中、戦後とその存在の意義が二転三転していく。

小林多喜二ほど、実態とかけはなれたレッテル、それもいくつものレッテルを貼られて語られた人間はいないのではないか、と思う。日本共産党の闘士、国賊、非国民、殉教者、英雄など、レッテルが多すぎただけ多喜二の実態は消えていき、やがてレッテルだけがひとり歩きしはじめる。そこからは人間としての多喜二がみえなくなり、レッテルを貼る人間が伝えたい多喜二の姿だけが――さまざまに現れてくる。

日記や手紙が顕している一途で純朴な、そして馬鹿正直ともいえるほどの求道性と正義感をもった青年の姿は消えてしまう。

いのちの記憶 小林多喜二のことIIより 著書『北は、ふぶき』所収

守分寿男演出主要作品リスト (舞台・著作以外は北海道放送制作・全国ネット放送)

テレビドラマ

- 『不知道 (ブーチータオ)』1962年11月30日放送 脚本 山川川夫
 - 『日々の微笑』1964年6月6日 脚本 福田善之
 - 『川』1964年11月15日 脚本 生田直親
 - 『母の童話』1967年7月30日 脚本 橋田壽賀子
 - 『わかれ』1967年11月19日 [芸術祭奨励賞] 脚本 安岡章太郎、長谷部慶次
 - 『女房の眼鏡』1968年11月17日 脚本 長谷部慶次
 - 『羽音』1969年12月14日 原作 三浦綾子 脚本 砂田量爾
 - 『流水の原』1970年6月7日 原作 渡辺淳一 脚本 長谷部慶次
 - 『銀の海』1971年4月25日 脚本 松山善三
 - 『風船のあがる時』1972年1月30日 [民間放送連盟賞優秀賞] 脚本 倉本聰
 - 『でんでん太鼓～春の巻～』1972年6月17日 脚本 小松君郎
 - 『田園交響楽』1972年10月29日 原作 アンドレ・ジイド 脚本 倉本聰
 - 『でんでん太鼓～冬の巻～』1973年1月28日 [民間放送連盟賞優秀賞] 脚本 小松君郎
 - 『ばんえい』1973年9月30日 [芸術最優秀賞・ギャラクシー個人演出賞] 脚本 倉本聰
 - 『りんりん』1974年9月8日 脚本 倉本聰
 - 『うちのホンカン』1975年5月18日 [民間放送連盟賞最優秀賞] 脚本 倉本聰
 - 『ホンカンがんぼる』1975年10月19日 脚本 倉本聰
 - 『幻の町』1976年2月8日 [芸術最優秀賞] 脚本 倉本聰
 - 『ひとり』1976年11月14日 脚本 倉本聰
 - 『時計』1977年11月13日 脚本 倉本聰
 - 『望郷』(ドキュメンタリードラマ) 1979年2月17日 脚本 長谷部慶次
 - 『遠い絵本』第一部:1979年8月12日、第二部:8月19日 脚本 倉本聰
 - 『あかねの空』1980年9月21日 [芸術最優秀賞] 脚本 山内久
 - 『コスモス』1981年9月21日 脚本 山内久
 - 『かけろろうの花』1983年9月4日 脚本 小南武朗、長谷部慶次
 - 『悠々たる天』1984年11月2日 脚本 山内久
 - 『林檎の木の下で』前編:1989年7月30日、後編:8月6日 [中国東北三省電視劇金虎栄誉賞] 脚本 岩間芳樹
- テレビドキュメンタリー**
- 『風土記北海道』1960年5月21日～62年12月1日 1回、不定期放送「黎明」「北限の海をめぐって」「土族の農法」「少年よ大志を抱け」「拓けゆく道」「史実を訪ねて 日高路」「史実を訪ねて 積丹半島」「史実を訪ねて 蝦夷切支丹抄」「しかを釣る少年」1961年9月22日(30分版)、62年2月3日(45分版) [昭和36年度民放祭ドキュメンタリー部門銀賞]
 - 『近くて遠い子供たち～サハリン・さっぽろ・テレモスト』1988年12月17日
 - 『いのちの記憶～小林多喜二・二十九年の人生』2008年5月31日 [平成20年度文化庁芸術祭テレビ部門大賞] 構成 守分寿男 演出 松田耕二・守分寿男
- ラジオドキュメンタリー・ドラマ**
- 録音構成『子守唄はなぜ消えたのか』1992年12月30日 企画・制作 守分寿男
 - ラジオ・そのイメージの世界『明日をください』2005年3月21日 [2005年度民間放送連盟・ラジオ娯楽部門最優秀賞] 作 鍋田敬子 制作統括 守分寿男
- 舞台演出**
- 『巨匠』(劇団民藝公演) 2004年3月～8月 作 木下順二
- 著作**
- 『さらば卓袱台 テレビドラマの風景』2008年2月10日 かもがわ出版
 - 『北は、ふぶき 続テレビドラマの風景』2017年11月15日 かもがわ出版

守分寿男全仕事

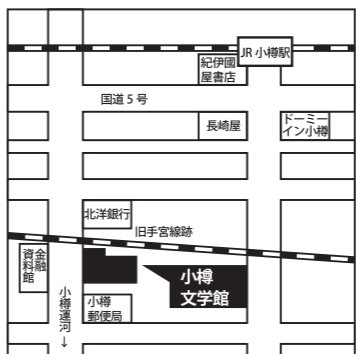
『幻の町』・小樽・小林多喜二

老夫婦の過去に彩られた〈幻の町〉の姿は、そのまま、此岸から彼岸に向かったの、ふたりのひたむきな祈りの象徴にまで高められなければならないはずのものであった。

それはその時、過去であると同時に、老夫婦がやがて行き着くべき〈彼岸〉の、美しい街の姿でなければならぬ。

私は、私のイメージの中で息づいている小樽の街を手探りしながら、そんなことを考えていた。

おそらく〈幻の町〉とは、誰にとってもそんな存在であるにちがいない。そう思われた。



会期 平成31(2019)年1月26日(土)～3月31日(日)

休館日 毎週月曜日(2月11日は開館) 2月12・13日(火・水、3月22日(金))

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入場料 一般300円 高校生・市内高齢者150円
中学生以下 無料

後援 HBC北海道放送
小樽文学舎

協力 ニセコ町・有島記念館

主催・会場 市立小樽文学館
〒047-0031 小樽市色内1-9-5
電話 0134-3212388

特別上映会 『幻の町』(倉本聰脚本 守分寿男演出 HBC北海道放送制作 1976年2月8日放映)

講演 『守分寿男の仕事、ドラマ『幻の町』など』長沼修(プロデューサー)

2019年3月9日(土) 午後2時より

会場 市立小樽文学館1階研修室 入場無料(定員80人)



テレビドラマ『幻の町』絵コンテ

2019年1月26日(土)～3月31日(日)